

## 28P-am326Q

化学の理解度を向上させる自由セミナー — 個人支援の効果 その2 —

○川嶋 恵子<sup>1</sup>, 高梨 香織<sup>1</sup>, 國仙 久雄<sup>1</sup>, 高木 英利<sup>1</sup>(<sup>1</sup>北海道薬大)

【目的】大学入試形態の多様化に伴い、高校における化学の履修時間やレベルに差が生じ、その結果、大学での化学の講義にスムーズについていけない学生が増えている。このような学生には個別に支援することが有効であると考え、昨年度、自由科目セミナー（進級・卒業単位に含まれない）を実施したところ学生に好評であったので、本年度は昨年度の問題点を改善して実施し、学生の出席回数と化学の成績推移との関連について検討した。

【方法】1年次前期に化学を対象とした自由科目セミナー「もやもや化学を晴れ晴れ化学にしよう」を開講した。講義の空き時間を利用して15講（15時間）行った。教員が問題を100問作成し、学生は自分のペースで問題を解くこととした。教員は単に解答方法を教えるのではなく、考え方のヒントや道筋を与えながらサポートした。本セミナーの効果を評価するため、入学時に実施した基礎学力試験、本セミナーの出席回数及び前期の化学の定期試験結果を比較した。

【結果】受講生20名中、10回以上出席した者（A群）は15%、7~9回（B群）が45%、4~6回（C群）が35%、3回以下（D群）が5%であった。各群における基礎学力試験順位の中央値は、A群219位、B群118位、C群127位、D群15位であった。化学の定期試験不合格割合はA群0%、B群22%、C群43%、D群0%であった。また、優（A）取得者の割合はA群67%、B群11%、C群14%、D群0%であった。

【考察】入学時における基礎学力試験順位が低くても、本セミナーへの出席回数が多いと化学の不合格者割合が減少するという結果からも、本セミナーは学生の授業に対する理解を支援するのに有効であったと考えられる。